

■ 検討の背景

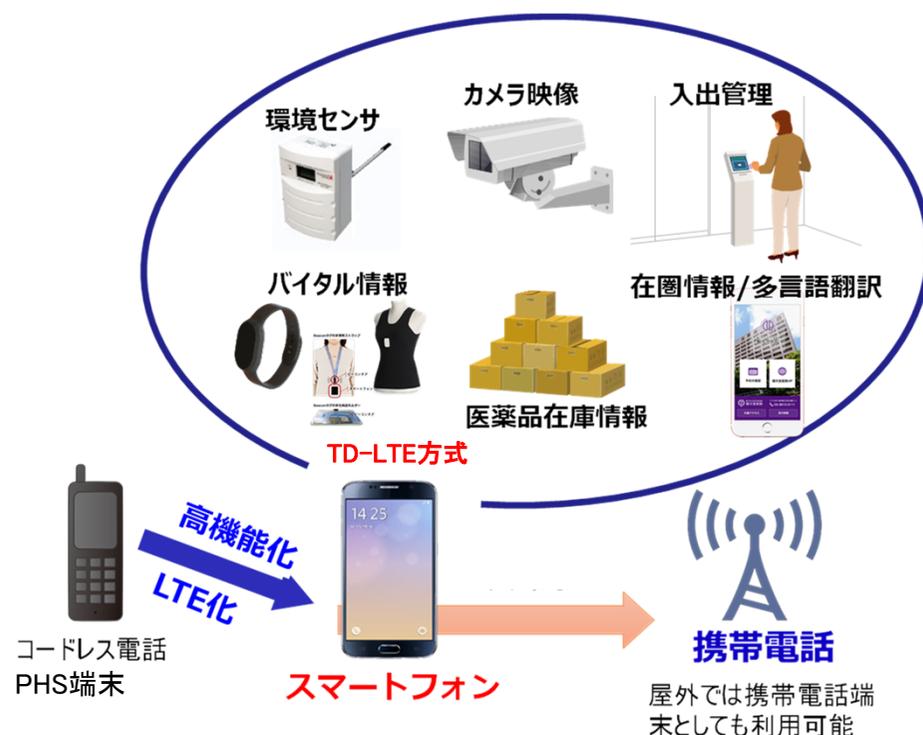
- 1.9GHz帯では免許不要のデジタルコードレス電話の無線局として、PHS方式、DECT方式、TD-LTE方式の無線局が周波数の共用をして利用されている。
- DECT方式の需要拡大への対応や高度化DECT (DECT-2020) の将来の利用への期待とともに、TD-LTE方式の利用ニーズの高まりやさらなる大容量通信への対応として広帯域システムの導入が望まれているところである。
- 1.9GHz帯においては、公衆PHSサービスがテレメタリングサービスを2023年3月末で終了することから、これらの状況を踏まえ、同周波数帯の更なる有効利用を図るためデジタルコードレス電話の各方式間の周波数共用や既存の無線局との周波数共用等に必要な技術的条件について検討を行う。

DECT方式の利用シーン



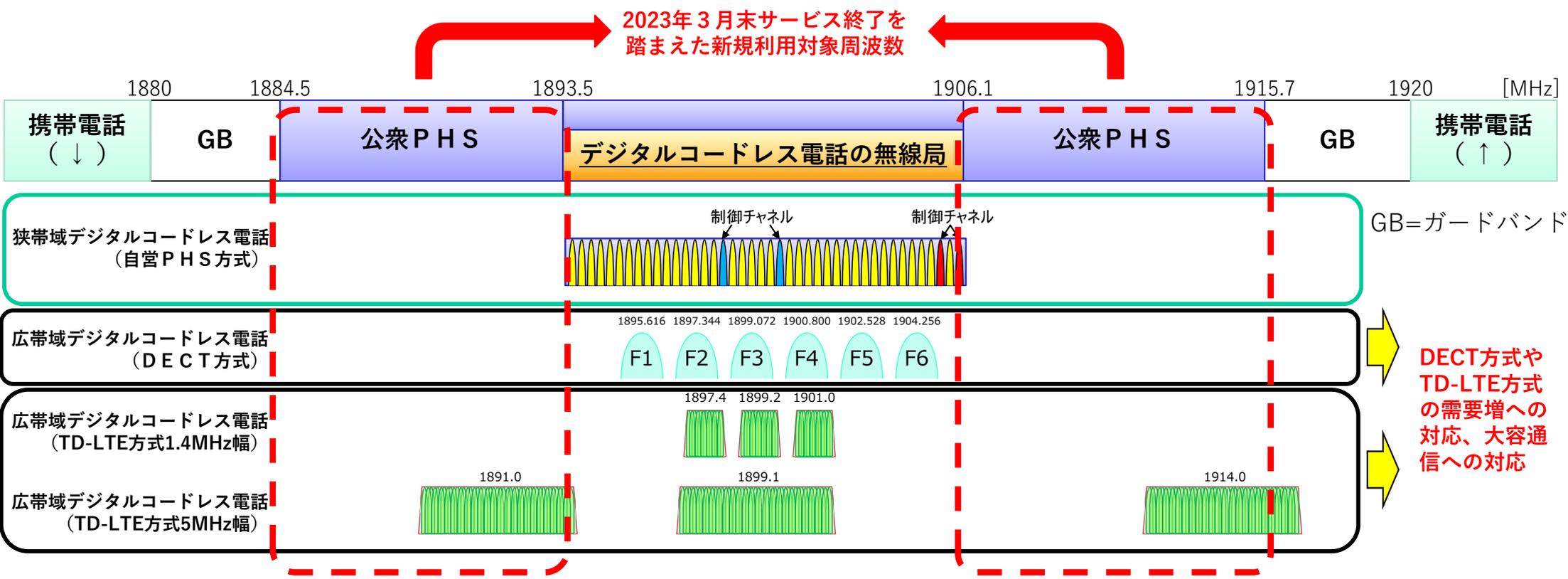
□ DECT方式は広帯域音声を含む音声アプリケーション(コードレス電話やワイヤレスマイクシステム)や簡易映像アプリケーション(テレビドアホンやベビーモニター)等で広く利用されており、需要拡大が続いている。

TD-LTE方式の利用シーン(例:病院)



□ TD-LTE方式は、LTE技術に該当し、セキュリティの高い端末認証やデータ通信が可能であり、病院などのPHSの置き換えとしてニーズが拡大。

■ 技術的条件の検討概要



主な検討項目

- DECT方式の需要拡大への対応、将来の高度化DECT (DECT-2020) への対応に必要な技術的条件の検討
- TD-LTE方式の利用ニーズの増加及び広帯域システムの導入に必要な技術的条件の検討
- 上記技術的条件の検討では、既存の無線局との共用検討も必要 (公衆PHS保護のため携帯電話システムにあった制限が解除されることを踏まえた検討等)